夕刊 磐城新聞
七月十一日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾五錢(郵税共)
廣告料金 普通欄 一行金九拾錢 雜報欄 一行金六拾錢 (場所指定一行壹圓) 五號十二字詰
編輯印刷兼發行人 柏木哲 平町字田町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
登録受信電略(タイライワキ) 平郵便局私書函第十二號 電話五六四番
(日曜祭日翌日休刊)

『伊勢詣り』(上)

長谷川せい

長かつた冬がすぎて、この小さな町にも春が訪れてくると、思出した様に御隱居さんは伊勢參宮をすると言ひ出しました、店から息子がとんで來て『今は商賣が忙しい時ですから、秋にでもなつたら私がお伴します』と言つて止めましたが『いゝや私は一人でゆく』と言つてきかないのです。

長い道中を老人一人で旅をさせるのは心配でしたが年の割に元氣だから大丈夫だらう。どうせいつまでも裏の母室に引込んでゐられない人なのだからと思ふと息子は御隱居さんの言ふ通りに從つたのでした。

御隱居さんはその次の日に立つ事に決めて了ひました『あまり早過ぎはしませんか』と息子は言つたけれども御隱居さんは『店を息子に任せてから三年にもなるから二日も三日もかゝつて自分の居ない間の事をかれこれ言ひつけておかなくてもいゝだらう』と思つてゐました。

出立の日は日曜だつたので孫達はおぢいさんを見送る事を許して戴けるともう大喜びでおぢいさんと一緒に停車場まで行きました。

『おぢいちやん、うんとお土産買つてきておくれよ』孫達は汽車が出るまでおぢいさんにねだつてゐるのでした。十日も居なくなるのだから澤山お土産をいだゞかなくつちやいけないと子供達は思つたのです。

『それおやどうぞお大事に行つていらつしやい』心配さうな息子達の言葉にも御隱居さんは默つてニコ〜〜と笑つてゐました。

汽車が出て了ふと息子達はお父さんの事を一層心配しだしました『無事に歸つてくれゝばいゝが』と心から願つてゐたのです、けれども子供達はおぢいさんからのお土産の事を話し合つて嬉しがつて居ました。

御隱居さんが出かけてから四日たち、五日立つても何とも御隱居さんからの便りがないので『そら大變だ』つて。息子達が長男の店へ集まつてどうしよう〜〜と相談してゐるところへひよつこり歸つて來たのが御隱居さんでした。

『あッお父さんだ』びつくりするやら、喜ぶやら、息子達は大騷ぎでお父さんを座敷に上げると、誰もが不思議で不思議でたまらないと言つた様な顏をして。

『一體どうしたのですかお父さん』と尋ねたのです。

御隱居さんは、しかし、しわのよつた顏に微笑を浮べて。

『あゝ行つてきたよ』と言つたゞけでした。

『馬鹿に早かつたんですね普通の人だつて一週間もかゝるところを』息子達は何が何だかさつぱり分らないのでした。『本當に行つて來たのだらうか』誰もが不思議に思ひました。が御隱居さんは嫁の出してくれた澁茶をすゝりながら、ニコ〜〜と笑つてから言ひました。

『伊勢へは行かなかつたよ!』びつくりしたのは息子達です。五日間どこへ行つて來たのか、何をして居たのか、色々と尋ねましたが『又明日にでもゆつくり話さう。今日は疲れたから』と言つて御隱居さんは裏の母屋へ入つて了ひました。

潮聲硯静抄帳 (六月集) 11

毒虫の斑美し木下闇　萬袋
飼犬のさき走りけり木下闇　香雨
門標の古りし庵あり木下闇　石城
下闇の藪より出でし蛇の衣　眞砂常
雨晴の瀧のきほひや木下闇　晩霞
巖にせく水の白さよ木下闇　文狂
巖傳ふ水ひかるなり木下闇　松堂
下闇に旅の紐とく乞食かな　十里

磐城歌壇

赤井嶽男

長男

宿題の多きに吾子は夕餉食まず、小暗きえんに鉛筆を削ろ
モルモットの草とらばやときりの朝を、新川端へ出で行ける吾子

二男

先づ太くめがねなかきぬ晩酌の、父を寫すと戯る吾子
今朝もまた三尺ばかり蚊帳を出でし、吾子の寢顏にほゝ笑まれぬる

三男

朝毎にあと追ひて泣く三男より、世に樂しくもかなしきはなし
今朝もまたあと追ふて泣く季の子に歸らまく思ふ心弱きわれ

時代警語

○王侯將相いづくんぞ種有らんや…(前漢書)
世に大人豪傑と稱せらるゝものは決して貴賤貧富に拘らずして唯修養の如何に由るのみ却て世の實例は貧賤より志を立て終に英雄と呼ばれ偉人と稱せらるゝ者多きは如何王侯將相と雖貴賤に何等の別はないのである……

夕方 (童謡詩)

原勝

山みち下りて
杉の若芽を
摘んでみる
うれしいにほひ
遠い兄さが
思はれる

山

和泉幸一郎

雀がこもる
夕竹やぶの
細みちを
ひとりで歸へる
くちなしの花
持ちながら
たれも通らぬ
嶽道よ
下で鳴いてる
郭公鳥
ねぐらはくづれて
岩手の國に
伸びて波うつ
海となる
牛に跨がり
子のつされ
今日ただ一人の
さなわらべ
にこと笑ふて
片手には
手には
山しやくやくを
みせてゆく。

社會の今日

7月12日 △伏見大地震桃山城破壊す(慶長元)△幕府五兩判の通用を停止す(安政元)△排水問題に付富山射水の六百餘名亂闘す(昭和五)△住友製鋼所爭議六十九日目で解決△朝鮮事件の報復として上海市各團体、對日經濟絶交を決議す△パリ東京間無着陸飛行ルブリ機パリ出發(同六)

○

拜領の鋼腐り居る暑さかな　李風

方丈は桐の茂に晝寢かな　月斗

『葱坊主』の讃

千葉省三氏の第二童話集を讀みて

島田忠夫

下

○

本紙に就いて、千葉省三氏の童話を讀んだ諸君は既にその作品の素朴感、土のかほりの高さなどを感得されたことであらう。またいかに巧みに方言を生かして居るかも感じた事であらう。それは皆、千葉氏の童話製作態度の周到なる綿密さにもよるのである。さらにその童心のゆたかさに於て淨化された幻想の美しさに於て、またありのまゝなる兒童性に於て、多くの感ずべき事があつたに違ひない。

○

長野縣下は教育の尤も盛んな所である、信濃教育會は一つの權威を持ち會員はまた安心を持つて教育に携つてゐる、その信濃教育會が千葉氏の『トテ馬車』を推奨して副讀本に小學校で用ひてゐる。『教育者にも藝術の修業が大切である。小學兒童には更に大切である!』斯う云つて教育會の幹部は『トテ馬車』を島木赤彦の『赤彦童謡集』土田耕平氏の童話集『鹿の眼』同『蓮の實』同『原つぱ』などと共に、各小學校に入れさせてゐる。『葱坊主』も既に多數この方面に入つて居りさらに次に出版される『地藏さま』も採用されるものと見られてゐる。

(註)『赤彦童謡集』(古今書院發行)
土田耕平著『鹿の眼』(同上)
同著『蓮の實』(同上)
同著『原つぱ』(同上)

○

千葉省三氏の童話集の刊行を引受けてゐる古今書院は主人橋本福松氏が一種の學者氣質の人であり、この點岩波書店主の岩波茂雄氏と相似てゐる。橋本福松氏は歌人土田耕平氏などの舊師であつて信州では教員生活もされてゐた。

千葉氏の童話集出版の交渉は僕が知遇を得てゐた關係上橋本氏にお願ひしたのであつた。橋本氏は快く引受けて呉れた。昭和四年のことである。乃ち第一童話集『トテ馬車』の時であつた。いまは『トテ馬車』も四版を重ねてゐる。

○

次いで『葱坊主』が今回出版され四月十日には『地藏さま』も出版されるのである。僕はどうかこれらのすぐれた童話集がわが石城郡下の小學校教師に讀まれる事を切望する。そして小學兒童にも與へられんことを切望する。

近時何々童話會などと云ふて小學教師諸君が、實演したりするのは一面感心出來ぬ。かやうな藝人じみた仕事は、教員には不必要なことである。教員は教壇にあつて、兒童によき童話でも與へて居ればよい。しやべつたり、手眞似をして兒童に分る程度のものは大した力のこもつた仕事ではない。この邊を考ふべきである。

○

長々と拙文を綴つた。このよき童話作家の童話を多くの人に讀まれる事を切望して、忙中これを草したのである。

講談 お蘭陀お蝶 (78)

渡邊默禪作　布施長春畫

巳れの方が餘程上手の皮肉、此の老人なか〜〜味をやる。

『あら、何をおつしやいます』

た陸はそれが手だとは知らずにうつかり乘せられて

『惡くとられちやあ困るぢやありませんか、私決してそんな心で申したのおや……御立腹遊ばしちや迷惑いたします、全くね、身分が……いえ眞實のお話でござんすわ』

と慌てゝ辯解してから

『あなた、御冗談ぢやないでせうか』

と眞面目に摺り寄る

『いやなに、お思召がなければ強いてお勸めいたすべき筋でもござりませぬで』

思ふ壺にはめて置きながら、猶駈引をして

『ま、ま、御考への上、宜しいとなれば何とかあらためて御相談も致すが香ばしくなければこりやこの場切りお聞き流しを願ひたい、格之助の様な青二才でなうても又外にな御息女の夫としても恥かしからぬ、金持の秘藏息子がございませうよ、ハ、、、』

とあざ笑ふ

お吉は襖の蔭で小面憎い叔父さんだと思つた、父母の意は知らぬが我のみは天にも地にも彼の方お一人——格さまを青二才とは何たる失禮な——金持の息子なんて厭なこと〜〜誰が他の男に——ちと私の胸にもなつて察して呉れても良さそうなものに、と大不平である。

『それぢや私共の方で差上げますとお答へ申上げたらあなたは此の縁談をお引受け下さつて、芽出度、四海波を謳はせて下さいますか屹とでござんすか』

母親は躍起となつた

『えゝ、そりやもう御念には及ばぬことで』

出雲は無雑作だ

『でござんすが、後々の爲め、念を推して置かねばなりません、あなたの御一存から出た話しとあらば、まだ大臘様へは御相談にはならないことでござんせうが、もしも先生が御不承知なら如何遊ばします』

『いや、不承知などゝ申さう譯がない』

『無いと思召しても、有つた節には』

『蜘平八郎と刺違へても愚老の言ひ分を立てずには置き申さん』

『先生が御承知でも肝腎の本人が厭だと申した節にはあなたには如何なさいます』

『格之助でござるか、ば、馬鹿な彼奴が其のやうな事を……ハ、、、そりやとんでもない御懸念と申すもの!』

『でも萬一のこと納得なさらぬ爲に破談になりましたなら』

『そ、其の時は此の出雲が割腹して申譯仕る』

今度は出雲の方が釣り込まれて熱心になつた、其處まで言はせればもう大丈夫と、た陸はにつこりして

『宜しうございます、差上げませう』

きつぱりした返辭

『えッ!呉れてくださるかアノ御息女を……』

『はい私が請合ひいたしました上は隱居や主人が何を申しませうと必ず御約束を果させまする、若し變替へなどいたしましたら此の母が自害いたしてなりとあなたの顏を』

『立てゝ下さるとか、やあそれは恭じけない』

お吉の心臓は高鳴つた渾身も融けて行く様なうつとりとした氣分。

と、突然肩を叩く者がある、ハッと思つて振り返ると乳付のお各がいつの間にか其處に立つてゐて背後からいきなり抱きしめた。

ラヂオ

…十二日…(火曜)…

仙臺 JOHK

△前六、〇〇A ラヂオ體操
△九、〇〇A 氣象
△九、一〇 料理献立(炒鳥) 松本良雄
日用品値段
△一〇、三〇A 家庭講座(外科的結核に就て) 高島令三
△正午A 時報
△後〇、〇五 錦琵琶(敦盛) 鶴田櫻洲
△〇、四〇A ニュース 氣象
△二、〇〇A 家庭大學講座(俳句と云ふものの概念) 高濱虚子
△三、四〇A 氣象
△四、〇〇A ニュース
△六、〇〇F (子供の時間) お話(大國主命と少彦名命) 神根哲生
△六、二〇A コドモの新聞
△六、二五A カレント、トピックス ハロルド、パーマー
△六、三〇A 英語講座(中等科) 勝又銓吉郎
△七、〇〇A ニュース 氣象 生繭相場
△七、三〇A 講演(世界の動きに對する偉人の豫言) 法學博士卜部百太郎
△八、〇〇A ラヂオドラマ(寺小屋) クラブンド…作 秦豊吉…譯 演出…前進座
△八、五五A 連讀講談(野狐三次) 神田伯治
△九、三〇A 時報
△九、三一A 滿洲よりニュース 氣象 生繭相場

技術本位 安心して御依頼下さい
時計修理
平才槌小路
高橋時計店

夜間診療
胃腸 内科 十二指腸虫病 専門 内科部
梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 専門 外科部
松村胃腸性病科醫院 (平南町電話一〇七番)

吉田眼科病院 平町紺屋町

美味百パーセントのうなぎ料理……
大蒲燒 一人前 四十錢 二人前 七十錢
うなぎ丼 細丼 二十錢 並丼 二十五錢 上丼 三十五錢
外に……◇親子丼 拾五錢 ◇柳川 二十錢
御客本意の勉强振り御試し下さい。
●出前迅速!!
二丁目(佐野屋旅館隣)
日の出・うなぎ食堂 電話六〇九番

横濱植木株式會社特撰
草花、蔬菜類
優良種子
各種賣出し致しました。
農園藥やく品の御相談は
西村屋藥局 電三番

内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋疾 皮膚病 市原三男
平町田町本通
市原醫院 (入院隨意) 電話一一四番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物
(久) 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番 九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり

入院隨意(自炊の便あり)
外科專門 X光線科
平南町
上田醫院
病室完備 (電話一二九)

專門 一般内科
内科ハ何デモ診療致シマス 呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五(電話一八一番)
川井内科診療所
醫學士 川井重之 女醫 川井安子

月曜論壇

財源涵養調査會

人の爲に往々濫設の嫌ひ無きに非る平町の諸機關中彼の財源涵養調査委員會の如きは少くとも其の代表的ナンセンスたるを失はないと思ふ、即ち該機關が創設されて以來、吾人は只僅かに木工玩具、鑛油の生產及び養鰻計劃を耳にした以外曾てその收穫あるを聞かず更に目下調査研究中に屬する何等の事項あるを知らない、由來之種の機關を設くるには其の當初に於て之れが有意義なる活躍に因て生ずる有形的の所產あるべきを庶幾せるは勿論該機關の如きは只管負擔の輕減を念願する多數町民から時節柄最大の期待を繫がれたるに拘らず見事之れを裏切つて所謂鰻香に了らんとしつゝある事は賢明なる町當局が完全に其間の認識を愆まつたものとして衷心遺憾に堪へぬ處である、而も事往々にして齟齬あり吾人は敢て徒く迄既往の見込違ひを咎むるの狹量を持するもので は無いが今後此種機關の創設に方つては其間の進止行藏苟もする事無く少くとも一度之を創めた以上は必ず何物かを結果するの牢乎たる信念を有つて欲しいと思ふ、若し夫れ賣名に汲々たる一部人士等の爲特に之種の機關を設け所謂線香煙火的結末を招徠し敢て省みざるが如き場合あらば町民の迷惑蓋し之に過ぐるものは無い、敢て當局の淸鑑に愬ふる所以である。

下水改修を急げ

記者最近拈華微笑欄に於て惡謔一番『雨たんびに元氣づく下駄の齒入れ。平町の下水評定』なるアイロニーを以てした、然り豪雨一たび臻れば直に濁水の氾濫を來す不完全極まる平町の下水は降雨の直後に於て必ず之が改修の必要を叫ばれるのであるが所謂咽喉元過ぐればの譬へ通り常時に於て之を顧みらるる事無く其の時に及んで始めて周章するが從來の例である、聞說最近も之に關する委員會が開かれたさうであるが、どうか此の際拔本塞源的の施設を講じて欲しいと思ふ。

半額支給と延滯とが 郡下を通じて三十校
歸省墓參も出來ぬ多數教員

小學校教員の給料未拂による窮狀は屢報の如く郡教員會では夫々對策を講じてゐるがその傾向は益々深刻化せんとして郡下五十五校中延期及半額支給が約三十校に及び殊に渡邊小學校の如きは延滯教員は暑休を控へ歸省半歲墓參も出來兼ねる狀態にあると

六名に給食
小學校の欠食兒

町內小學校では生徒中日雇勞働者の子弟二百名近くに對し縣の通牒に基き調査した結果その內の六名に對し此程から給食を開始した

出資と積立が增し 證券や現金が減る
郡下產業組合現勢

產業組合郡部會去月末現在の郡下各組合業績は（括弧內は昨年同期）組合數二四（二六）組合員數八、〇〇六名（七、八八八）出資總額八四五、二七五圓（八三五、二八五）拂込總出資金五九四、五八四圓（五九〇、四七九）諸積立金二一五、九一二圓（二〇四、九一八）借入金四〇七、一一八圓（四二三、七〇二）貯金七〇二、五一七圓（七一六、三九八）貸付金一、三三五、六九四圓（一、三三〇、六七〇）購買高一五六、二三七圓（一一〇、二〇九）販賣高一三三、二八九圓（一八六、四三三）利用高五、六五九（八、八六七）領金一四八、四九六（一九九、〇八六）有價證券五、五八五（六、九一七）現金三二、七五七（三三、四四五）で組合員數、出資額、諸積立金の增加借入金の減少が內容の充實を物語つてゐる一面不況の影響で領金、有價證券、現金が減じてゐる

埒明かぬに憤慨し 結局不納同盟決議
紛糾の六十枚耕整組合

草野村下神谷六十枚地內耕地整理は二十六年以前に完成したが降雨續きの際に於ける排水不完全と旱魃時の灌漑水不足から關係耕地三十六町歩は年々半收穫の悲運を續け來つたので關係地主四十二名から從來屢次組合に對して之れが應急改修方を交渉したが埒明らず昨年縣耕整課に對し組合への改修命令方を陳情せるも之亦更に要領を得ぬに憤慨し最後の手段として耕地整理費及水利費の不納同盟を斷行すべく昨十日から同志の調印取り纒めに着手し成り行きを刮目されてゐる

滿洲行
藤田中尉 —（第廿三信）—

。北大營の戰跡を語る（續）

◇便所の銃眼　各兵舍の外壁はこれ皆便所である、而して其處には丁度肩の高さ位に無數の小さな穴が附いてゐる通風氣だ兵舍丈あつて他の支那一般建築とは異なり流石に衞生的に出來てゐると思つた。だがよく聽いて見るとこれは銃眼だと云ふなる程と更に感心した、平時には保健衞生的な通風氣孔だが一旦事あるの◇秋に臨んで直ちに變つた堅靭なる防備銃眼となる、一擧兩得とは蓋し此の種のものであらうと思ふと私は急に胸糞が惡くなつたのだ、事變勃發の當夜虎石台の第三中隊長は躊躇なく決然起つて北大營攻擊と決心し中隊の主力を提げて兵營に迫り、東側地區南滿鐵路の線に散開して最初の射擊開始を命じた。この秋敵兵の姿は見わないだが猛烈に敵彈が◇散兵の前後　に雨中落下した、豫ねての備へ便所の銃眼が著しく役立つたわけである、その銃眼も今は散々に破れ壞されてゐたのも痛快であつた。

。。。。練兵場の野菜畑。。。。廣い大きな練兵場にはかなりな反別をさいて耕作地野菜畑がある、察する處休日の折や練兵の合間〳〵を利用しては一般兵士にも軍事以上のこうした農業技術農業敎育を施し、時にはとり〳〵な◇花畠等も作らして一面優雅風流の氣象を涵養するのではないか等と勝手な想像を逞しうしたのである處がこれも事の意外、由來支那の兵團は委任經理ならざる一種の請負事業であるそうな規制された一定の請負經理だ、團長自らの營利を追ひ、自腹を肥やすためには僞つて兵員を減じ、又は野菜等の如き自給自足の私案を立つるも亦良策なのであらう

◇精兵を養ふ　に日も亦足らざるの現今平生私利を貪り營利に奔つて尙ほ且つ事あるの日、國の守りに備へんとする矛盾元より欲して得べけんや、文人錢を吝み、武人命を惜みて其國亡ぶ、況してや武人錢を追ふに於てをや

。。。。豪强島本中佐。。。。島本中佐は在奉天獨立守備第二大隊長天保錢組の逸才である、見るからに强豪身心共に緊つて間然する所なき毅然たるその風貌は既に人に將たり、百萬を叱咤して曠野に馳驅する武人の面影自ら躍如たるものがある、一度談ずれば立板に水を流すが如き能辯、再び談ずれば人の肺腑を抉ぐつて止まざる雄辯、實にこそ口八丁、手八丁の强武夫である宜なる哉其夜柳條溝の爆破を知るや、電光神敏獨力攻擊を決心し、部下將兵僅かに六百に足らざる寡兵を提げ大膽不敵にも無慮八千を擁する北大營を襲ひ、攻むるに神速果敢一擧に之れを擊破した强豪勇將である

。。。。島本中佐は語る。。。。現地に中佐は語る『自ら指揮し、自ら攻略した戰跡に就いて、自ら口外し他言する事は余の平生心から欲せざる所であるのみならず余が部下將兵も余と其信念を同じうし余亦命じて堅くこれを禁じてゐる。

組合と圓く行かず 小名濱消防組幹部總辭職
會計報告の紛糾から

小名濱消防組では組頭小濱長太郎氏が就任以來會計報告が完全に行はれないと云ふ理由の下に第二部長宮野靜翁氏外九名が過般來組頭に對し辭職勸告中であつたが豫期通り交渉が進行し無いので昨十日前記十名の辭職書を取り纒め渡警察部長に提出したが同町は商港、平小鐵其他將來の躍進に關する諸種の重大問題を控へ乍ら間がな隙がな町內同志の紛糾を續けてゐるので近來頓に心あるものの顰蹙を招いてゐる

海水浴季中 臨時列車運轉
平驛の赤字補塡計劃

平驛既往三ヶ月間の旅客收入は昨年同期に比し

四　月　二、四〇七、二〇錢增
五　月　四三、一四錢增
六　月　一、六〇六、二〇錢減

で珍らしくも差引千二百十四圓十四錢の增であるが之は博覽會に因る一時的增收で再た復た例年通り減收を來すべく同驛では來海水浴季を當て込み既報の如く波立藥師祭典及丑の日に四倉久之濱間に假停車場を設けて臨時運轉を行ふ外大体來月初めから平驛發午前八時二分、同十時三分、四倉驛發午後四時十六分の海水浴臨時運轉を行ひ收入減の挽回に努める筈であると

木曾便乘者
平町で十六名決定

平町に於ける木曾艦便乘希望者百三十八名中左記十六氏に決定したが一般參觀は二十一、二兩日午後一時から五時迄許可されると
萩原義雄、伊藤儀七、吉田寅之輔、吉村安次郎、千葉彥治、田中金三郎、日野良太郎、谷口長治、後藤桂山、柏原光太郎、小林濟吉、木澤常松、島田春夫、坂本浩、渡邊政兵衛、鈴木丑松

平町公會堂敷地 愈々埋立てに着手
設計主任は飯島技手

平町公會堂建設委員會は九日午後一時から町會議事堂に開催、設計を町囑託飯島技手に一任し來月初めから元公會堂跡池沼約七百坪の埋立に着手する事に決した

第三兒童籠球練習
秋の大會に出場

平第三校では來十月開かれる磐中校友會主催濱三郡籠球大會に於て最初の覇權を握るべく他校に率先し早くも猛練習を開始したが近く磐中橫井教諭のコーチを受けると

晴の縣下大會に 磐中、平商の勇躍
兩校野球部の猛練習終る

磐中、平商兩野球部の縣下大會に於ける活躍は今から町內ファンの血を湧かしてゐるが兩校では飽く迄フエアプレーを以て頑張るべく昨十日午前九時から中學球場で勝負を度外視して練習試合をなしたがバッテリ磐中杉浦、下山田、平商赤坂渡邊、審判石坂（球）、織田水竹（壘）

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	
中	3	0	0	0	0	0	0	2	3	8
商	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

の戰績で午後二時終つた

。。。。三丁目對大室屋　十日午前四時から第三校で、十三對九、三丁目捷つ

浪江チーム捷つ
昨日の軟式野球豫選

時事新報社主催全日本軟式野球大會平支部豫選會決勝戰はファンの待望裡に昨十日正午から磐中、第一兩球場に開催したが戰績左の如く浪江チームが斷然優勝し來月中旬福島市で開催される縣代表豫選會に出場する事に決定した

△準決勝戰

	一	二	三	四	五	六	七	
浪江	0	0	0	2	0	0	0	2A
湯本	0	0	0	0	0	0	0	0

	一	二	三	四	五	六	七	
勿來	0	0	0	0	0	2	0	2
磐炭	1	0	0	0	1	1	0	3A

△決勝戰

	一	二	三	四	五	六	七	
磐炭	0	0	0	0	0	0	0	0
浪江	1	0	2	1	4	0	3	11A

尙同チームのメンバー左の如くである
足戶妻野（勳）家（定）木山田
百神新唯新光光鈴村山
投捕一二三遊左中右監

。。。。高女選手練習　磐城高女では此程の理事會で今秋の縣下体育大會に於ける出場種目を庭球、競技、バレーバスケツトの四種と決定猛練習を行つてゐると

平町に赤痢
四丁目に發生

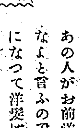
平町四丁目九松本愛三方櫻田新吾（二五）は昨十日赤痢と決定隔離されたが平署管內では今年初めての患者である

ると

頻繁な小考查に カンニング流行
磐中で對策講究

磐中では考查も一段落をつげ二十日から夏休に入るが定期考查を廢した關係から小考查が一課目一週二回位行はるる爲め多數課目の事とて一部の生徒中にカンニングが流行し監督も寬大な爲頗る增加し一部生徒中には不平を唱へてゐる向もあるので學校當局では對策を考慮中である

艶罪黑白



◇エロ味百パーセントのでれつき方で鼻下長連を與崗の三枚目からヤニ下らせるお艦は好んで洋髪を結つてゐる◇それはあの人の好みは言ふまでもないが當人の顏が日本髪に似合はないらしい、そこであの人がお前洋髪にしなよと言ふのでその氣になつて洋髪ばかりを結ふ、◇お艦を呼んで客がお前はいつも洋髪を結つてゐるが藝妓らしく島田でも結つてお座敷へ出てくれといへばあの人洋ばつが好きなんですもの——と手放しに言ふが、多分プロインテリの奧様になるらしいと噂とり〲だが當人はさうぢやないと言つてゐる、あゝ五月蠅いどつちでも勝手にするがよい◇かれ祭からシメ千代（二三）がお披露目。前姫地は須賀川督てそこのボタンと共の艶を競つた。なんてまさか、兎に角六十七錢では『ホントに御し値よ』だつて、ますみ、また語るなよ。

線香の殘火
呀や大事に至る處 今曉南町のボヤ

平町大町民衆法律相談所伊藤乘吉方佛壇から今十一日午前三時半頃發火したのを家人が發見天井一坪を燒いて消し止めた原因は線香の殘火

滿蒙大激戰映畫
今日から世界館で
福島民報社平支局主催

福島民報社平支局主催第二師團福島聯隊區各司令部福島聯合會平在鄕軍人會後援の實寫戰爭映畫滿蒙大激戰全十卷は他の興味的映畫三本と共に今十一日から四日間晝夜二回世界館で映寫されるが該映畫は滿洲長春北滿日報社の寫眞班五名が砲煙彈雨の中を第二師團に從軍し撮影した名映畫であると

。。。。十三日講演會　十三日例會は午後七時からマルトモホールに開催安齋辯護士の『指紋に就て』なる講演がある

。。。。養蠶實行組合會　十一日午前十時から四倉繭市場で出荷統制に就き協議した

。。。。郡下地方農事協議　十五日午前九時から平團体事務所樓上で開催する

井上縣議講演　平消防組では十日午後六時半から平署會議室に井上組頭の滿洲、上海視察講演會を開いた

東山から

東奔西走、一昨日來當地に參り居り候、昨朝來雨晴れて峽谷の氣分又格別に御座候、委細は古川兄に御聽き願上候、尤も小生は宿を異に致し居り候間その詳細は直說可仕候（十日東山溫泉にて中目生）

。。。。始業繰り上げ　町內三小學校では二十一日から三十日迄始業時間を八時より三十五分繰り上げ正午放課す

。。。。鍛冶町火防役員　組合長山野邊久利、副高根澤政一同酒井信夫三氏に決定した

。。。。八坂神社例祭　平町縣社子鍬倉神社境內八坂神社例大祭は十四、五兩日執行午前九時から神輿渡御を行ふ

。。。。嬰兒殺し判決　飯野村看護婦鈴木トヨ（二二）に係る殺人事件の言渡しは十六日であつたが都合により十八日に延期された

肖像畵の先生自轉車を盜む

湯本町大字寶海居住宮城縣柴田郡金ヶ瀨村生れ書家村上源太郎（三三）は六日神谷村毋神谷瀨戶七四農夏井五郎實父福治（七五）妻ツネ（七二）の肖像畵揮毫の依賴を受け同家に宿泊中八日午前十一時頃同家の自轉車價格三十五圓を乘り逃げし平町南町朝鮮料理店趙奉伯方の遊興代四圓八十錢の代に當てた事發覺昨十日平署に檢擧された

。。。。米穀鑑定會　十四日午前九時から穀物檢査平支所で開く

。。。。地藏尊護符　細川家一門外難病平癒者六千餘名の信徒を有する東京池袋驛四〇四白粉地藏堂では本尊おしろい地藏菩薩の靈驗あらたかな護符を諸病に惱む人々へ頒つ由此護符は受けた其晚より感應し不思議に靈効現るとて曾て東京時事新報で其由來と諸名士の全快者を揭げ頌讃してゐる希望者は病名記載郵劵一枚封入申込めと

舊六月九日　火曜　甲戌　友引　平　室宿　七月十二日

諸判定鑑　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白の人　逆捲く浪の如く胸は躍れど手の出し樣なし▲二黑の人　思案に窮するも人に賴らず獨行に努むべし▲三碧の人　外の喜びあれど內の悲しみあらんとする日▲四綠の人　氣を取り直して根氣好く斯業に勵むべき日▲五黃の人　平運にして分外の計劃なくば實收も揚がる▲六白の人　秩序を亂さず齊實なれば大事も遂行する日▲七赤の人　小利も積めば巨額となる些事と雖脫かすな▲八白の人　寬仁大度に人を包容すれば信望厚きを加ふ▲九紫の人　事業遂行し願望成就の吉日なれど放資注意

一番よい無盡
無盡は三年
湯本信用無盡

▲興信所ノ業務▼
一、銀行會社商工業者資產內容調査
一、結婚緣組調査、人事一般調査
一、一般財界事情通信
◎全國各地海外在住者ノ調査引受ケマス。
◎料金僅少、敏速、秘密嚴守
株式會社日本興信所東京大阪各興信所聯絡
銀行同盟會公認　平町字田町五十三番地
商業興信所
◎當所代理部は債權取立讓受債務整理引受マス

例年の通り
氷水 始めました
多少に拘らず御用命御引立の程願上ます。
特製
アイスクリーム（山盛）金十錢
あづきアイス（同）金五錢
ミルクセーキ（同）金十五錢
ソーダ水（同）金十錢
其他氷水各種
出前迅速！
平町一丁目　藤寅
電話……一四一番